

## 『学校教材史料集』テーマ一覧

番号	テーマ	教材化のねらい	掲載号
1	那須国造碑が建てられた頃 －下毛野古麻呂と大宝律令－	那須国造碑や藤原京出土木簡を教材として、古代の下野の歴史を理解させるとともに、あわせて中国との関係や大宝律令制定に尽力した下毛野古麻呂の業績について理解させる。	1号
2	土器に書かれた不思議な「文字」(?)	中国の唐代のごく限られた時期に使われた「則天文字」が記された墨書土器を教材として、古代の下野と中国との文化や外交について理解させる。	6号
3	古代下野庶民の名前	郡衙跡から大量に発見された人名瓦の写真を見せ、書かれた文字が人名であることに気づかせ、古代の下野の庶民の様子や郡司との関係について考えさせる。	6号
4	古代下野の金	下野産の砂金が、奈良の大仏建立に使われたかもしれないことを関係史料から推測することによって、当時の政府と下野の結びつきについて考えさせる。	4号
5	下野国分寺出土の文字瓦	聖武天皇の命令で下野にも建てられた国分寺について触れ、出土した瓦に書かれた文字を読み、その意味を考えさせる。	2号
6	たった2文字が歴史を変える！ －飛山遺跡出土の墨書土器－	9世紀初め頃の飛山に古代の高速情報伝達手段である「のろし」をあげる施設があったことの意味を考えさせる。あわせて蝦夷対策上の下野国の位置づけについて理解させる。	3号
7	頼朝と東国御家人の関係	源頼朝と鎌倉幕府の創業を支えた東国御家人との関係を、文書の形式の違いに着目させて理解させる。	1号
8	御家人宇都宮氏の所領支配 －「宇都宮家弘安式条」を読む－	鎌倉時代の御家人の惣領制や領内の実態、幕府との関係、中世の裁判の特徴などについて、具体的内容を含む「宇都宮家弘安式条」を読むことで理解させる。	3号
9	足利氏が幕府を開けたのはなぜか？	鎌倉時代の足利氏に関する様々なデータを紹介し、それらを北条氏と比べて分析させながら、足利氏が幕府を開くに至った歴史的背景を理解させる。	4号
10	村の自治 －室町時代における下野の事例から－	正長の土一揆の頃、下野でも農民の年貢減免を要求する動きが見られたことや、これに対する領主（日光山）側の対応などを史料から読み取らせることによって、この時代の社会の基本的特徴を理解させる。	4号
11	中世下野農民の成長と領主の対応	同じ荘園に関する室町中期と織豊期の史料を比較させることで、この間の農民の成長と性格の変化、これに応じた領主権力の変質などを理解させる。	1号
12	下野の人々と伊勢信仰	江戸時代だけではなく、戦国時代にも下野で伊勢信仰がさかんであったことを史料から読み取らせることによって、戦国時代の人々と宗教との関わりについて理解させる。	4号
13	中世後期の足利学校 －戦国大名に人気だった秘密とは？－	足利学校で考えられた学問の内容を史料から読み取らせながら、足利学校が特に戦国時代にさかんになった理由を考えさせる。	5号
14	長篠の合戦と下野の武将 －小山秀綱と織田信長－	信長が小山氏に出した長篠の合戦に関連する書状を読み解くことで、この戦いが下野の政治情勢にまで影響を及ぼしていたことに気づかせる。	2号
15	山城づくりの工夫－上杉謙信と唐沢山城－	上杉謙信や北条氏と関わりが深い佐野の唐沢山城を取り上げ、写真や絵図などを見ながら築城当時、防御を強化するためにどんな工夫を凝らしたかを考えさせる。	7号
16	宇都宮国綱から見た戦国～織豊期の下野	下野の戦国大名である宇都宮国綱を豊臣政権との関わりの中で取り上げ、戦国時代から織豊期への移行期の下野の状況を理解させる。	9号
17	戦国期農民の危機	戦国争乱の危機的状況の中で、農民たちがどのように自分たちの生活を守ったか、また領主たちはそうした農民たちの動きにどう対応したか、具体的史料から読み取らせる。	2号
18	戦国武将の贈り物	自家の存続と安泰をかけて、下野の中小領主が信長や秀吉と外交関係をもったことに気づかせる。また、贈答品が輸入品であったことから、当時の対外貿易についても理解させる。	10号
19	豊臣秀吉が宇都宮で行ったこと	小田原北条氏を滅ぼした後、秀吉が宇都宮に11日間滞在し、関東や奥州の統治策を決めたことを史料から読み取り、秀吉と下野との関係を理解させる。	2号

番号	テーマ	教材化のねらい	掲載号
20	関ヶ原の戦いと那須の武将たち	史料から、関ヶ原の戦いの際に那須地域でも戦闘があったことを気づかせることによって、中央の大きな出来事と下野が深くかかわっていたことを理解させる。	4号
21	方広寺梵鐘と佐野天命鋳物師	徳川氏が豊臣氏を滅ぼすきっかけとなった事件として有名な方広寺の鐘の鋳造は、中世から鋳物の町として栄えていた佐野天命の鋳物師によって行われた事実を紹介する。	2号
22	「壬生城絵図」を読む	壬生城絵図を見ながら城下町の構造や街道の通りを読み取り、武士や町民、農民など様々な身分の人たちが集まって生活していた様子を理解する。	6号
23	大名扱いをうけた小さな藩の殿様 —喜連川藩主の話—	1万石以下でありながら大名としての扱いを受けた喜連川藩の特殊性を取り上げ、幕府が源氏の流れを重視していたことを理解させる。	5号
24	朝鮮通信使と下野国	江戸時代に朝鮮通信使が訪れた下野と朝鮮との関係を理解させる。また、幕府と朝鮮間で取り交わされた贈答品の種類やその目的を考えながら、江戸時代の外交を考えさせる。	9号
25	文治政治と「生類憐みの令」	生類憐みの令に関する史料を読み、綱吉がこの法令を出した大きなねらいを理解させる。また教科書に載る歴史事項が、実際に下野の村でどのように展開したかを理解させる。	2号
26	那須で行われた日本初の発掘調査 ～水戸光圀と考古学～	日本で初めての考古学的な古墳発掘を行った水戸光圀に関する史料を調べ、元禄期にさかんになった学問の発達について理解させる。	5号
27	江戸時代の下野国の産物	ひらがなの（一部方言も見られる）史料を読み、180年前の下野で生きていた動植物や虫について調べ、作成の背景に將軍吉宗による産業奨励策があったことを理解させる。	1号
28	鉄砲は何に使う？ —鉄砲を武器にしなかった江戸時代の百姓—	江戸時代の百姓が多くの鉄砲を有していたことを知るとともに、その理由や必要性、また鉄砲の使い方について考えさせ、江戸時代の社会や農民の暮らしについて理解させる。	10号
29	獺（かわうそ）のいた風景	江戸時代の下野に、現在見られないかわうそや少なくなった野生動物が棲息していたことや、人々が作物の被害を防ぐため、鉄砲使用を願い出していたことなどを理解させる。	3号
30	入会地をめぐる本村と新田村の争い	徳川吉宗の重要な施策の1つであった新田開発に関し、実際には入会地などをめぐって本村と新田村が争うような場合もあったことを理解させる。	5号
31	糶摺り騒動（宇都宮藩明和元年の百姓一揆）	糶摺り騒動が惣百姓一揆であったことと主体が名主層とは利害の一致しない貧農層であったこと、藩は税制改定にあたり、農民からの許可制をとろうとしたことを理解させる。	3号
32	江戸に運ばれた卵	須賀川から江戸に送られた鶏卵を教材として、江戸時代の流通経路や輸送手段、地方と江戸との結びつき、江戸の人々の食生活などを理解させる。	6号
33	村のきまりから見た農民の成長	江戸時代後期、農民に上下（かみしも）着用や帯刀、敷地内に門を構えるなど、権利の伸張がみられたことと、それに対する領主の柔軟な対応について理解させる。	3号
34	米公方の米価政策	享保の改革の一つとして吉宗が行なった米価政策が下野にも及んでいた実態を史料を通じて理解させる。	9号
35	朝鮮人参栽培と下野	江戸時代の下野の特産品である朝鮮人参の栽培が、徳川吉宗の国産化政策の中で始まり、享保の改革の殖産興業政策の中で重要な役割を果たしたことを理解させる。	2号
36	新田開発をめぐる領主と農民	絵図から江戸時代の村に入会地が存在したことを読み取らせ、入会地を対象とした新田開発に農民側も容易には承知せず、やがて新田開発は限界を迎えていたことを理解させる。	3号
37	農耕彫刻が語る江戸時代の稲作	栃木県に現存する農耕彫刻（一年間の稲作風景を彫刻に仕立てたもの）を教材として、江戸時代の稲作や百姓の勤勉、農具改良など農村の暮らしや文化水準について理解させる。	7号
38	天明の凶作・飢饉体験	天明の飢饉当時の下野の農村の状況を地域史料を活用することによって理解させるとともに、市場経済の発展と飢饉が深く関係していることにも気づかせる。	7号
39	天保の改革～栃木に老中がやってきた～	天保の改革の儉約令が、下野でどのように行なわれていったかを地域史料を通して理解させる。また、水野忠邦が下野を通行していたことに気づかせ、興味関心を高める。	9号
40	往来手形から庶民の旅を考える	江戸後期、女性も巡礼などの目的で旅に出ていることを通し、庶民への旅の広がり理解させる。また、寺請制度や関所の制度についても理解させる。	2号
41	江戸時代の乳幼児手当	幕府や藩が間引き防止とセットで村の小児に養育費を払っていたことを史料から読み取らせ、その目的（年貢収入の維持・増大）を考えさせる。	3号
42	江戸時代の農民の休日は何日か？	史料から江戸後期の農民の休日が意外に多かったことに気づかせ、この背景として集約的な農業の発展があったことを理解させる。	1号
43	番付表を読む —江戸時代における宇都宮の繁栄—	関東で繁盛した町やその主要特産品などを掲げた番付表を見ながら、江戸時代における在郷町の発展や情報の伝達状況について考えさせる。	7号

番号	テーマ	教材化のねらい	掲載号
44	江戸時代の宣伝広告	実物の版木を示すことにより、興味関心を高めながら、江戸時代の商業や宣伝広告の仕方について考えさせる。	6号
45	江戸時代の読書ブーム	江戸時代後期、庶民も読書をするようになっていたことや難しい学問も受け入れ、私設の図書館などもできたことを知るにより、この時期の庶民文化についての理解させる。	5号
46	太田胃散と洋学	太田胃散の創業者が壬生の出身であることを知り、下野と明治期の西洋医学との関わりを理解させる。	6号
47	教科書の歴史	手習本の内容を読み、読み書きと同時に実際に仕事をするのに必要な実用的な知識も学んでいたことを気づかせる。さらに、庶民が熱心に子弟を教育を行った理由を考えさせる。	3号
48	江戸時代の農民と学習	寺子屋に関する史料を読み、江戸後期には領主の思惑とは別に一般農民層まで読み書き学習の需要が高まってきたことを理解させ、その社会的背景を考えさせる。	1号
49	江戸時代、下野の人々が学んだ学問	江戸時代の寺子屋で九九を学んでいたことと、九九を生活必須の知識ととらえていたことを知り、江戸時代の学問と今日の教育内容との共通点に気づかせる。	8号
50	江戸時代後半の農民と商店経営	史料から、江戸時代後期に農民が商いを行うようになっていたことに気づかせ、領主もそれを建前上は禁じながらも、実際には運上金を徴収し許容していたことなどを理解させる。	1号
51	幕末期の商店	江戸時代末期、宇都宮や今市、日光などの宿場町にどのような商店があったかを読み解くことで、当時の産業の具体的状況を考えさせる。	1号
52	江戸時代における旅館のメニュー	栃木町の料理旅館で出された会席料理のメニューが書かれた史料をみながら、当時の町人の食文化一端を知るとともに、食材を入手した流通ルートについて考えさせる。	9号
53	黒羽藩家老が知った「蝦夷地変事」	下野の武士の視点からロシア進出の脅威を実感させるとともに、同時代に生きた下野の人々の認識を史料から考えさせ、国際環境の変化と幕藩体制の動揺について理解させる。	10号
54	地域経済の要、江戸時代栃木町の役割	下野南部の経済中心地であった栃木町を対象に、経営帳簿を教材として地域経済と全国的な商品流通の関係について理解させる。	8号
55	「変化朝顔」からみた江戸時代の庶民生活	江戸時代末期、庶民が園芸を楽しんでいたこと、宇都宮からも変化朝顔を江戸の展示会に出品していたことなどを多色刷りの本を見せながら気づかせ、庶民の生活文化の豊かさを理解させる。	1号
56	地域への文化の広まりと地誌編さん	化政文化の特色である文化の地方への普及が、商品流通の活発化により経済力を向上させた豪農の存在を背景としていたことを理解させる。	10号
57	幕末の「日本地図」	興味関心を高めやすい地図を教材として、江戸時代の地図が高度な技術を元に作成されていたことを理解する。	9号
58	ペリー来航と地方への情報伝達	ペリー一行に出された料理や贈り物の内容を史料から読み取らせるとともに、鎖国状態の中でもこのような詳しい情報が下野各地にまで伝わっていたことに気づかせる。	2号
59	「鎖国中」の海外情報	江戸時代、鎖国政策がとられていたにもかかわらず、庶民の間にもかなりの海外情報が入っていたことの実態を知るとともに、栃木県にそのことを示す史料が残されていることの意味を考えさせる。	3号
60	歓迎されざる止宿者 —小貫村にやってきた浪人たち—	浪人としての武士の姿を取り上げるにより、武士身分の実態を知るとともに、組合を作ったり自治的な取組みを見せるなどの江戸後期の村の様子を理解させる。	7号
61	領主の課税強化と農民の対応	ペリー来航という非常事態を理由に課税強化を図ろうとする領主側と抵抗する農民側のそれぞれの言い分を確かめながら、農民が課税を了承した理由を理解させる。	1号
62	芝居興行禁止をめぐる役人と村人の攻防	江戸時代後期の農民には苦しい側面もあるものの、一面では浸透してきた貨幣経済の中で、より豊かな生活を送ろうとしていたことを史料から読み取らせる。	4号
63	江戸時代の郵便屋さん	貨幣経済の農村への浸透ともない、庶民も現在の郵便にあたる飛脚を用いたことに気づかせ、江戸時代後期の社会の変化について理解させる。	4号
64	江戸時代の献立	江戸時代末の名主の祝い事における献立の中身を読ませ、その豊かさを実感させることによって、庶民生活の一端を理解させる。	4号
65	農民の名字帯刀	原則として認められなかった農民の名字帯刀に例外があったことに気づかせ、その理由を考えさせることによって、江戸時代後半の農民と領主の具体的な関係について理解させる。	4号
66	これはなんだろう？ —江戸時代の庶民の交通—	木製の鑑札などを見せて、江戸時代の庶民の交通事情や旅などについて考えさせる。	5号
67	益子焼の始まり～大塚啓三郎の活動～	益子焼の創始者である大塚啓三郎の功績をたどりながら、近代に発展した益子焼が江戸時代に農業の副業として始まったことを理解させる。	6号

番号	テーマ	教材化のねらい	掲載号
68	下野における近代医療の始まり	下野でも種痘が実施されていたこと、壬生藩がこれを進めた理由などを史料から確認し、幕末に地方へも洋学の1つである近代医学が普及していったことを理解させる。	2号
69	戊辰戦争と下野	下野における戊辰戦争の一端を史料から読み取らせ、同じ農民でも、反幕府の世直し一揆に参加する者と、藩から組織されこの鎮圧にあたった者との違いを理解させる。	2号
70	戊辰戦争と今市 －戦禍に巻きこまれた庶民－	今市の戦いの絵図から当時の戦闘状況を知り、さらに戦禍に逃げ惑う庶民の姿を通して、激動期の歴史の実態を理解させる。	10号
71	明治維新を考える －太政官高札「五榜の表示」・「地券」ほか－	「五榜の表示」と呼ばれる太政官高札や地券の実物史料を見ながら、維新期の国内改革と本県の状況とのつながりを理解させ、歴史の動きを身近に感じさせる。	1号
72	廃藩置県と県民の日	江戸時代末期、多くの藩領や幕府領に分かれていた下野が、廃藩置県を経て明治年6月15日に統一栃木県となっていった経過を読み取り、県民の日の由来を理解させる。	2号
73	地域から見た地租改正	史料を読むことによって、地租改正事業が実際には政府が決めたとおりにスムーズには進まず、地域の指導者たちがその実現に努力した実態について理解させる。	5号
74	何が変わった?地租改正	地租改正の内容を地券から読みとらせるとともに、江戸時代の年貢割付状を読みながら、江戸時代の年貢納入と地租改正との違いを理解させる。	8号
75	徴兵制～徴兵される村人の行動から～	史料から徴兵にあたってどれくらいの人々が免じられていたかを読みとり、徴兵の実態とそれに対する国の政策の変化などを理解させる。	5号
76	維新期の社会の変化－仏葬から神葬へ－	神仏分離が進められた実態を、地域史料を読み取りながら理解させる。	8号
77	物価表から見る明治時代の社会	栃木県内の物価表をもとに、物価が季節や地域によって異なっていることに気づかせ、それが労働者数や鉄道開通など、経済・社会条件によって生じていることを理解させる。	10号
78	明治初期の小学校	地域史料を活用しながら、小学校の児童数や募金による建設、運営など、明治初期の小学校の実態を理解させる。	6号
79	牛乳から見た栃木の近代化	牛乳販売の形態や方法についての違いについて、明治初期の開始期と現在とを比較しながら、栃木県における文明開化の具体的な様相を理解させる。	7号
80	「太陽暦の実行」は、どのように進められたか?	文明開化の代表例として小学校の教科書でも取り上げられる太陽暦への改暦について、栃木県の庶民意識や庶民生活の混乱などを示しながら実態について理解させる。	9号
81	天皇巡幸を迎えた栃木の人々	栃木県の人々が天皇巡幸を迎えた際の作法を考え、政府の立礼の指示と庶民のズレから文明開化の実態を理解させる。	10号
82	栃木県の殖産興業事始め（大崎商舎）	明治時代の殖産興業の地域における展開事例として大崎商舎をとりあげ、立地条件や創業者の思い、先進的な設備などについて理解させる。	3号
83	那須郡の生糸、横浜から海外市場を目指す!	近代の日本にとって重要な輸出産業であった製糸業が栃木でも盛んに行なわれ、また横浜から海外に輸出されていることに気づかせ、栃木と世界との結びつきを理解させる。	9号
84	文明開化と明治の地方産業 －「大日本博覧図」を読む－	地方の産業を担った有力者の邸宅図を見て、文明開化期の住宅や産業技術の実態を読みとらせる。	1号
85	内国勸業博覧会と地域の産業振興	殖産興業策の中核となった内国勸業博覧会が、これに呼応して積極的に出品し、産業を興そうとした地域の人々の熱意によって支えられていたことを理解させる。	3号
86	士族の転身はうまくいったのか?	明治政府の士族授産政策によって、士族の転身がどのように進んだかを、史料を通して理解させる。	8号
87	地域の力で道路を開く	生活圏を通る道路の開さく歴史を学ぶことにより、郷土に対する興味関心を高めるとともに、開さく事業を明治前期の経済政策との関係の中で理解させる。	6号
88	足利織物産業と両毛鉄道	江戸時代からの伝統的な足利織物が、地場産業から近代産業へと発展していく経過を鉄道の関係も含めて理解させる。	7号
89	足尾銅山の先進的技術	足尾銅山の技術発展を産業革命の進展の中で理解させるとともに、足尾銅山が日清戦争以前から技術導入を進め、日本の重工業の先駆的存在であったことに気づかせる。	8号
90	栃木県の石灰業	江戸時代から始まった石灰業が、明治に入っても時代の変化の中で新しい技術を採り入れながらさかんに行われていた様子を理解させる。	4号
91	鍋山人車鉄道－石灰を運んだ軌道と足尾銅山からの技術導入－	栃木の鍋山地区の石灰産業が明治になってから鉄道輸送と結びついて発展したことと、ガソリン機関車の設計に足尾銅山の先進技術が生かされていたことに気づかせる。	7号

番号	テーマ	教材化のねらい	掲載号
92	何の絵だろう ー明治時代の錦絵よりー	栃木県内で行われた自由党による立憲改進黨攻撃のための大会を描いた錦絵を読み解きながら、自由民権運動の具体的な様子を理解する。	4号
93	明治時代の栃木県の写真を見てみよう	宇都宮に2代目の県庁舎ができた際の写真を見て、当時の文明開化の様子などを考えさせる。	5号
94	藤原に映画がやってきた！～文明開化がもたらしたもの～	栃木県で上映された映画の招待状を見ながら、明治中期以降大衆娯楽として急速に広がった映画の歴史について考えさせる。	6号
95	宇都宮を走った乗り物	明治後期、地域の特産物を運ぶ目的に一時的に普及した人車鉄道について考えさせることで、当時の産業の特質を理解させる。	5号
96	近代の河川交通 ー栃木県と東京を結んだ川蒸気ー	明治末年まで交通機関として重要な役割を果たしていた河川交通をとりあげ、地域の産業と密接に結びつく形で利用され、それがやがて鉄道にかわっていく事情を理解させる。	5号
97	大正期における選挙	制限選挙時代の政府による地方有力者への選挙運動の実態を示す史料を読みながら普通選挙を求める声が強まっていった背景を理解させる。	3号
98	大正時代に行われた節米	大正時代の米不足の原因を考えさせるとともに、それが第一次世界大戦期の世界経済、貿易構造の影響を受けたものであったことを理解させる。	8号
99	運動会から見た日本の近代教育	明治大正期の運動会の写真や運動会プログラムから種目や競技内容を読み取り、当時の時代背景を受けながら運動会が行われていたことを理解させる。	8号
100	小学生のお受験	義務教育が徹底し上級学校への進学希望者が増加したり、中学校数の不足等により競争倍率が高かった大正時代の教育の特色を理解させる。	6号
101	児童雑誌から見た大正期の生活・文化	雑誌附録を素材として、大正時代の小学生の和洋折衷の生活様式に気づかせる。また、都市文化の農村への普及や学校教育に比重がおかれていたことなどを理解させる。	10号
102	「郷土教育」から「ふるさと学習」へ	昭和18年に作成された初等科4年の「郷土教育」の指導案から、歴史、地域、理数科を関連づけた学習を通し郷土を理解し愛する心を培うことをめざした実践事例を紹介する。	4号
※47 再掲	教科書の歴史	明治期や戦中の教科書の内容を読みながら、各時代の影響を受けながら教育が行われていたことを理解させる。	3号
103	戦争と国民生活 ～軍用飛行機献納運動を考える～	戦争が長期化し生活が窮乏する中、さらに栃木県でも軍用飛行機献納運動が行なわれたことを知ることで、国民総動員体制の実態を理解させる。	6号
104	戦時下の国民生活	戦時下、栃木県内でも戦争のために廃品が回収されていたことや食糧が配給になっていた様子を知ることにより、当時の人々の生活について理解する。	5号